

スノフェス in モセウシ ～雪肉祭り～

2月11日、町カーリングホール駐車場で、季節外れの焼肉と花火を楽しむイベントを開催。

J A北いぶき青年部妹背牛支部と妹背牛商工会青年部が協力し、妹背牛の冬を盛り上げようと企画雪肉祭りのスタートは午後5時からで、寒さが身に染みてくる時間帯。参加者たちは、帽子、マフラー、手袋と防寒着をしっかりと着込み雪肉祭りに参加。ビールも凍る中、焼肉をつまみ、白い息



妹背牛で働くベトナムの皆さん

を吐きながら、世間話に花が咲きます。おでんやラーメン、シチューと言った温かいメニューは大人気。長蛇の列が出来ました。祭りの後半には、挑戦者を募り、かき氷の早食い競争が行われました。冷たい雪と風が吹く

中、かき氷を頬張る挑戦者たち。「キーン」となる頭を押さえながらも完食。「冷たすぎて口の中がしびれる」との感想が。その後は、抽選会が行われ番号が読み上げられるたびに、歓声が上がっていました。祭りの締めくくりには、季節外れの花火が打ち上げられ、訪れた人々を楽しませました。



スノーモービルに歓声



見ている方も寒くなるかき氷の早食い



ラーメンおいしいよ！

小西健太さん、

「いのちと献血俳句コンテスト」入選

若年層に「献血」に対する関心と理解を深めてもらうべく実施している「日本赤十字社 第12回赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」

1月13日、中学校校長室において北海道赤十字血液センター鈴木一彦旭川事業所長より賞状が授与されました。中学校生活最後となる野球大会への熱い思いが詰まった句。鈴木所長も「野球への情熱が読み取れ、一心に野球に打ち込む姿が浮かんでくる」と若さ溢れる作品を絶賛しました。



賞状を受取り、笑顔を見せる小西さん。同左 小熊校長、同右 鈴木旭川事業所長

小西さんは「夏休みの課題だったので、中学生生活最後となった野球の試合を題材にして考えました。選ばれるとは思わなかったのですが、すごくうれしかったです」と話し、野球は続けるのかとの質問には、「高校へ行っても野球は続けま

す」と清々しい笑顔を見せてくれました。

◎入選作品

「白球に勝利をかけた最後の夏」

ト」において、全国から約23万句、全道では176名の中学生から948句の応募があり、その中から妹背牛中学校3年生の小西健太さんの作品が、北海道中学生の部で入選しました。2